

---

---

# 第43回国際公文書館円卓会議 (CITRA) 参加報告

国立公文書館統括公文書専門官室公文書専門員

中山 貴子 なかやま・たかこ

---

---

## 1. はじめに

2011年10月22日から29日まで、スペインのトレドにおいて、第43回国際公文書館円卓会議 (Conférence internationale de la Table ronde des Archives, CITRA) が開催された。2013年以降は「年次会合」(Annual Conference) に改組されるため、今回が最後の CITRA となった。トレドはキリスト教、イスラム教、ユダヤ教の歴史に彩られた古都である。ここに「デジタル世界におけるアーカイブズの存続：21世紀のアーカイブズ保存 (Keeping Archives Alive in a Digital World: Archival Preservation in the 21st Century)」をテーマに、約90ヶ国350名が参加して活発な議論が交わされた。以下、期間中に行われた運営会合の様と合わせて報告する。

## 2. 地域支部関係会合

専門プログラムに先立ち、各種運営会合が開かれた。当館館長は国際公文書館会議東アジア地域支部 (EASTICA) 議長として、地域支部議長会合、プログラム・コミッション (PCOM) ・セクション議長・地域支部議長会合、執行委員会 (EB) の三つの会合に出席した。

### 2.1 地域支部議長会合

執行委員会で議題となる予定の2013-16年ICA分担金改定案、CITRA 廃止に伴う ICA 憲章改正、PCOM 活動や地域支部用の予算等について、それぞれ会長や財政担当副会長、事務総長等から説明があり意見交換を行った。また、明文の規定がない地域支部代表副会長の選出方法を明文化する

ことで一致した。

### 2.2 PCOM・セクション議長・地域支部議長会合

主要議題は、ICA のガバナンス構造における PCOM の位置づけについて。セクション委員長会合での議論がたたき台とされた。それによれば、EB は全体の戦略的フレームワークを構想し、PCOM と管理運営委員会 (MCOM) がそれぞれプログラム、マネジメント部門を実行する。また、主題別に組織されているワーキンググループ (WG) を PCOM の下に再構成し、セクションは PCOM と緊密な連携を取る。EB、PCOM、MCOM のトライアングルを中心とした構造に再編するというものである。また、2013年以降の年次会合専門プログラムの企画を PCOM が担当することになったのを踏まえ、セクションから人材を出して PCOM の下部組織を作るといった組織強化案も出された。

## 3. 執行委員会 (EB)

EB は年次総会に次ぐ ICA の意思決定機関であり、総会にかけられる議題は全て事前に EB で討議される。今回の主な議題は以下の通り。

### 3.1 2016年の ICA 大会開催地

ICA 大会開催地の選出については、総会で EB の推薦する国に対する承認を諮るという手続きになっている。今回は EB 開催直前にフランスが立候補を取り下げたため、候補は韓国1カ国のみとなった。韓国によるプレゼンテーションの結果、満場一致で韓国・ソウルを EB 推薦の大会開催国とすることが決定された。

### 3.2 ICA 憲章改正案

参加資格がICAのA、B会員に限定されていたCITRAを廃止し、新たに全てのICA会員が参加できる年次会合に改組するのに伴い、ICAの憲章改正が必要となることから、今回その改正案が示された。将来に向けて、ICA憲章をもっとシンプルな基本的事項のみを規定するものとし、憲章の下に幾つかの細則(Terms of Reference)を設けて、EB、MCOM等の組織の役割や、現時点であいまいな位置づけとなっているWGや委員会について、きちんと明文化した規則を設けていくこと、また、それぞれのWG等の上位組織を規定し、報告ラインを明確にすること等が討議された。

### 3.3 2013-16年ICA分担金改定案

各国の経済指標(GNI p.c.)を4段階、人口を8段階に分けた計算式に基づく改定案が財政担当副会長から示された。会員間の分担金格差縮小を目指したこの改定により、先進国については現状維持～値下げになるところが多い。2012年度は当面現在と同額。2012年の年次総会で新算出方式による分担金額が採択されることを目指す。2016年までの間、段階的に移行していく方針。

この他に、PCOM強化案、2013年、14年の年次会合開催地決定手続や2012年春のICA役員選挙手続等について討議した。

## 4. 国立公文書館長フォーラム

2013年からのCITRA改組に伴い、国立公文書館長フォーラム(Forum of National Archivists, FAN)が導入されることとなった。ICAの原点に戻り、各国の国立公文書館長が意見交換する場を設けることで、記録管理に関してグローバルな現状・課題認識を共有するのがその狙いである。今回は「開かれた政府」、電子情報資源の評価選別、電子情報保存施設の三つをテーマに、各国の国立公文書館長がプレゼンテーションを行った<sup>1</sup>。

David S. Ferriero (米国国立公文書記録管理院長)

オバマ政権は、効率的な行政サービスや市民の政治参加を促進するべく、「開かれた行政への指令(Open Government Directive)」(2009年12月発表)で、連邦の行政機関に対しオープンガバメント計画策定を義務づけた。これを受け、米国国立公文書記録管理院では、ウェブ上での情報発信や、解りやすい言葉遣いで画像を多用したウェブ版連邦広報の編集に力を入れている。また、機密情報の開示審査を効率化するため、院内に国家機密解除センター(National Declassification Center)が設置された。

Karel Velle (ベルギー国立公文書館長)

ベルギーは元来情報公開に関して規制が多い。また省庁再編の結果、保存期間中の行政文書の照会が難しくなった。様々な行政手続をネット上で行えるようにする欧州連合の「2011-15年電子政府行動計画」は、デジタル時代における公文書館の役割を問い直している。開かれた社会において、アーキビストは①政策に関心を払い、②文書移管を迅速に行い、③他の省庁や民間セクターとも連携し、④公益を意識して資料収集しなければならない。

Jaime Antunes da Silva (ブラジル国立公文書館長)

ブラジルでは情報開示請求権が憲法上保障されているが、情報への完全なアクセスを規定した法律はまだ成立していない。米国とともに国際組織Open Government Partnershipの共同議長を務め、政府の透明性向上や行政コスト削減に取り組んでいる。

Martin Berendse (オランダ国立公文書館長、ICA会長)

オランダの既存の評価選別システムPIVOTは文書作成から時間をおいて評価するため、書き換えが容易なデジタル情報の管理に適していない。そこで2009年からは文書作成後なるべく

早い段階で評価選別する新方式が導入されている。移管手を迅速にこなすため、デジタル記録のライフサイクル・マネジメントは多くても二段階にとどめるべきだ。今年発表されたデジタル記録に関する新方針では、デジタル記録の移管スケジュールを策定すること、国立公文書館が行政機関向けにデジタル記録保管庫の役割を担うこととされた。

Daniel J. Caron (カナダ国立図書館公文書館長)

カナダは2005年から、評価選別プロセスに社会の様々な利害関係者(公文書館、図書館、学術機関等)の意見を反映させる「全社会型モデル(Whole-of-Society Model)」を導入している。その評価基準は文書が歴史的価値を有するか否かではなく、現代社会にとって有意な情報資源であるか否かにある。そのため、記録媒体は重要なファクターではなくなり、記録の保管場所については選択肢が増えた。

Joel Das Neves Tembe (モザンビーク国立公文書館長)

適切な記録管理は、より良い統治体制を実現する上で不可欠なものだ。この共通認識に立ち、ESARBICA(東南アフリカ地域支部)ではデジタル記録管理について、カナダから講師を招いてトレーニングを受けたり、記録管理政策を見直すなど、支部単位で取り組んでいる。

Jussi Nuorteva (フィンランド国立公文書館長)

情報通信技術の発達により、ネットワークを介したeScienceという研究手法が広がる中、公文書館の役割も様々な利害関係者を繋ぐ調整機能にその比重を移しつつある。立法作業や電子出版もその一環だ。フィンランドでは、国内700を超える図書館、公文書館、博物館の資料情報検索システムであるナショナル・デジタル・ライブラリーを稼働させたが、これは各機関の情報保存施設をクラウド状に連携させたものだ。

Andreas Kellerhals (スイス連邦公文書館長)

スイスでは2012年末までに連邦諸機関の業務を完全にデジタル化することが決まっており、2013年以降、連邦公文書館ではデジタル形式の文書しか受け入れられないため、デジタル記録保管庫の整備は緊急の課題だ。情報の透明性については、2006年以降全ての連邦政府情報を対象とした試験的プログラムを実施して文書の非公開年限を一時的に停止している。またスイス固有の課題として、連邦公文書館が民間企業、とりわけ金融機関の情報をどこまで保護すべきかという問題がある(典型例として、スイス国内の銀行に預けられた資産が争点となる裁判が挙げられる)。

Greg Goulding (ニュージーランド国立公文書館  
チーフアーキビスト兼ゼネラルマネージャー)

ニュージーランドでは、政府機関からの大量のデジタル情報を移管・利用・保存するためのデジタル・アーカイブ設置プロジェクトが進行中だ(2013年1月完了予定)。コンソーシアム・モデルを採用し、国立公文書館の管理システムArchwayを、ニュージーランド国立図書館の既存の管理システムRosettaに連結する。二館でデジタル記録の収集方針や保管プロセスを共有することにより、情報管理コストを下げることが目標にしている。政策課題として、デジタル記録の法定保管年限の短縮化、機密資料のメタデータの公開度合といった問題が挙げられる。

## 5. 国際アーカイブズ開発基金 (FIDA) 理事会

FIDA (Foundation for International Archival Development) は開発途上国におけるアーカイブズ関連プロジェクトを支援する基金で、その資金にはICA 会員からの寄付金とICA から配分される資金が充てられている。今回の理事会では応募基準を満たしたプロジェクト全12件を審査。検討の結果、アフリカ統一機構委員会やソロモン諸島



等から提出された全5プロジェクトに計約25,000ユーロの補助金を支給することに決定した。

## 6.CITRA 専門プログラム

今年の専門プログラムは「デジタル世界におけるアーカイブズの存続」をテーマに、10月26・27日の二日間にわたり、4つの全体セッションと4つの分科会、2つの公開セッションで構成された。以下、印象深かった講演をいくつか紹介する。

### 6.1 基調講演 1

「電子アーカイブズを長期保存する上で見落とされている脅威」David Bearman（アーカイブズ・ミュージアム・インフォマティクス会長）

現代のアーキビストは、①自然・政治・社会的環境の変化、②記録をキャプチャー（capture）することの必要性、③新ジャンルのコミュニケーションの3つを脅威と捉えてはいないようだ。

①については、千年、一万年に一度という低頻度でありながら、ひとたび起こると大きなインパクトを与える出来事が近年相次いだ。これは科学技術ベースの手法ではこうした出来事に対応しきれないのみならず、既存の社会的機構（social institutions）が思っている以上に脆弱であり、そこに依存しているのは高リスクであることを意味している。

②は、現在生み出されるテキスト情報のうち、記録されているのはわずか0.01%にも満たないが、全ての情報が作成されると同時にキャプチャーされるのでなければメタデータは意味を成さない。

③は具体的にはDropboxのようなクラウドサービスやFacebookのようなソーシャルメディアが挙げられる。従来のものと異なり、ここでは情報の発信者—受信者という図式がしばしば成り立たず、ネットワーク外の人間が自らの痕跡を残さずにメタデータをチェックすることができる。こうした中では、やはり作成時に情報をキャプチャーするののでなければ有効なメタデータを取得できなくなるであろう。

### 6.2 基調講演 2

「デジタル世界におけるアーカイブズの存続：ICCROMの視点」Mounir Bouchenaki（ICCROM〈文化財保存修復研究国際センター〉事務局長）

近年「文化遺産」の概念が拡大し、今や保存すべき対象は著作権やオープンソース等の無形物にまで広がっている。ICCROMはICA等の関連団体と連携して音声・画像コレクション修復訓練プログラムを提供することで、この流れに対応している。またアーカイブズ遺産で言えば、ハイチ地震時の例に見るように、ユネスコのような文化セクターだけでは大規模災害に対応するのは難しい。国連と協力して取り組む必要がある。

### 6.3 分科会I-2 完全性と信頼性：

#### 運用上の問題点

デジタル記録保存にまつわる問題点にはどのようなものがあるのか。まずカナダ国立図書館公文書館のSurette デジタル保存部門長は、変化の目まぐるしいデジタルの世界にあっては、保存技術・戦略に関する問題を一世代の内にすべて解決することは困難であるという認識を示し、同館では資料を円滑に次世代へと引き渡すため、適宜修正できるようなコンパクトなシステムを構築する戦略を採っていると発表した。Ellis オーストラリア国立公文書館長代理は、巨額の予算を充てなくともデジタル・アーカイブの構築・運営は可能であり、白書やイニシアチブのような政府の意思表示は必ずしも必要ではないと報告した。最後に韓国明知大学のYim氏は、大量の電子公文書が移管される「2015年問題」を控えた韓国のデジタル・アーカイブ整備状況を報告した。

### 6.4 全体セッションⅢ 災害対策と対応

本セッションでは、災害発生時のアーキビストの対応について、事例報告を中心として5人のパネリストが発表を行った。高山正也館長は「被災アーカイブズを救え！—悲惨から明日への希望の発見へ」と題して、東日本大震災後の日本のアーカイブズ界の取り組みについて報告した（全文は

p.71～73掲載)。Schmidt-Czaia ケルン市歴史文書館主任ディレクターは、2009年に突然倒壊した同文書館の復旧作業を通して作成された、文化財保管施設が守るべき十の戒めを提言した。それは施設としての通常業務を確実に遂行することと、有事への備えを怠らないこと、この二点に集約されるが、特に他機関とのネットワーク構築が重要だとの提言は示唆的である。Blum ハイデルベルグ市公文書館ディレクターは、同文書館が消防署と平時から連携し、文書保護のため、必要最小限の水で消火活動を行う共同訓練をしていると報告した。

## 7. 年次総会 (AGM)

CITRA の最後を飾る年次総会では、まず1954年に第1回をパリで開催して以来、57年間にわたって大会の無い年に毎年開催してきた CITRA の廃止が正式に決定された。CITRA は今後、1) 年次総会等のガバナンス会合、2) 国立公文書館長フォーラム、3) 専門セミナーの3部構成による年次会合 (Annual Conference) に改組される。総会では、CITRA 廃止に伴う憲章改正を行い、今後年次会合の専門セミナーの構成は PCOM が担当すること、CITRA 事務局に替わって国立公文書館長フォーラムの事務局を設置すること等を

決定。CITRA は原則として A 会員 (連邦/国立公文書館等) 及び B 会員 (専門職団体・教育機関等) のみが参加できる会合だったが、新たに始まる年次会合には、ICA 会員であれば誰でも参加可能となった。

また、2016年の ICA 大会開催地として EB の推薦を受けた韓国がプレゼンテーションを行い、投票の結果、正式に韓国・ソウルが開催地に選ばれた。

総会ではこのほか、2011年の ICA 各部署の活動年次報告、2010年度外部監査報告、2012年度 A 会員の分担金額案、2012年予算案等を承認した。

## 8. おわりに

第一回会合から半世紀を経て、CITRA はその使命を終えた。替わって2013年から開かれる年次会合は、すべての ICA 会員が参加できるものである。この制度変更が示すように、ICA 執行部は会員からの積極的な働きかけを重視している。それは今回、英語・仏語 (ICA 公用語)、スペイン語 (開催国言語) に加えて、CITRA 初の試みとしてアラビア語の同時通訳を用意してチャンネルを増やしたことにも表れていると言えよう。年次会合への改組を機に、日本からも多くの ICA 会員が生まれることを期待したい。

<sup>1</sup> 国立公文書館長フォーラム及び専門プログラムでのプレゼンテーションの一部は CITRA Toledo 2011の公式サイトからダウンロードできる (2012年1月現在)。http://en.citratoledo2011.mcu.es/

## CITRA 専門プログラム (仮訳)

10月26日 (水)			
9:30	<p><b>【全体セッション I】 21世紀のアーカイブズ保存の特徴：現状説明と課題・問題提起</b>            議長：Martin Berendse (ICA 会長)            基調講演講師 1：David Bearman (アーカイブズ・ミュージアム・インフォマティクス会長)            「電子アーカイブズを長期保存する上で見落とされている脅威」            基調講演講師 2：Mounir Bouchenaki (ICCROM〈文化財保存修復研究国際センター〉事務局長)            「デジタル世界におけるアーカイブズの存続：ICCROM の視点」            基調講演講師 3：M. Chikhi (アルジェリア国立公文書館館長)            「保存をめぐる緊張：デジタル化、そのコストと原本保存の継続」</p>		
11:30	<p><b>【分科会 I】 保存のためのデジタル化とデジタル記録の保存</b></p> <table border="1"> <tr> <td> <p><b>1 保存戦略としてのデジタル化：機会と制約</b>            議長：Cristina Usón Finkenzeller (スペイン文化省文書複製サービス・チーフ)            講師 1：Vladimir Tarasov (ロシア連邦公文書庁副長官)            「セキュリティ用の写し：なぜ必要とされるのか」            講師 2：Mayra Mena Múgica (キューバ・ハバナ大学情報学部教授〈記録管理学〉)            「千の言葉を紡ぐ絵：アーカイブズ保存戦略としてのデジタル化」</p> </td> <td> <p><b>2 完全性と信頼性：運用上の問題点</b>            —デジタルは紙以上の難題か—            議長：Andreas Kellerhals (スイス連邦公文書館長)            講師 1：Ron Surette (カナダ国立図書館公文書館デジタル保存部門長)            「デジタル保存へのカナダ式アプローチ」            講師 2：Stephen Ellis (オーストラリア国立公文書館長代行)            「オーストラリアとニュージーランドにおけるデジタル・アーカイブズの形成：これまでの経験と教訓」            講師 3：イム・ジニ (任真姫) (韓国明知大学校デジタル・アーカイブ研究所)            「ERM システムにおける記録の大量移送・保存機能の設計」</p> </td> </tr> </table>	<p><b>1 保存戦略としてのデジタル化：機会と制約</b>            議長：Cristina Usón Finkenzeller (スペイン文化省文書複製サービス・チーフ)            講師 1：Vladimir Tarasov (ロシア連邦公文書庁副長官)            「セキュリティ用の写し：なぜ必要とされるのか」            講師 2：Mayra Mena Múgica (キューバ・ハバナ大学情報学部教授〈記録管理学〉)            「千の言葉を紡ぐ絵：アーカイブズ保存戦略としてのデジタル化」</p>	<p><b>2 完全性と信頼性：運用上の問題点</b>            —デジタルは紙以上の難題か—            議長：Andreas Kellerhals (スイス連邦公文書館長)            講師 1：Ron Surette (カナダ国立図書館公文書館デジタル保存部門長)            「デジタル保存へのカナダ式アプローチ」            講師 2：Stephen Ellis (オーストラリア国立公文書館長代行)            「オーストラリアとニュージーランドにおけるデジタル・アーカイブズの形成：これまでの経験と教訓」            講師 3：イム・ジニ (任真姫) (韓国明知大学校デジタル・アーカイブ研究所)            「ERM システムにおける記録の大量移送・保存機能の設計」</p>
<p><b>1 保存戦略としてのデジタル化：機会と制約</b>            議長：Cristina Usón Finkenzeller (スペイン文化省文書複製サービス・チーフ)            講師 1：Vladimir Tarasov (ロシア連邦公文書庁副長官)            「セキュリティ用の写し：なぜ必要とされるのか」            講師 2：Mayra Mena Múgica (キューバ・ハバナ大学情報学部教授〈記録管理学〉)            「千の言葉を紡ぐ絵：アーカイブズ保存戦略としてのデジタル化」</p>	<p><b>2 完全性と信頼性：運用上の問題点</b>            —デジタルは紙以上の難題か—            議長：Andreas Kellerhals (スイス連邦公文書館長)            講師 1：Ron Surette (カナダ国立図書館公文書館デジタル保存部門長)            「デジタル保存へのカナダ式アプローチ」            講師 2：Stephen Ellis (オーストラリア国立公文書館長代行)            「オーストラリアとニュージーランドにおけるデジタル・アーカイブズの形成：これまでの経験と教訓」            講師 3：イム・ジニ (任真姫) (韓国明知大学校デジタル・アーカイブ研究所)            「ERM システムにおける記録の大量移送・保存機能の設計」</p>		
13:00	<p><b>【公開セッション】 ICA 周知向上セッション</b>            議長：Lew Bellardo (PCOM 担当副会長)            本セッションは、ICA が現在取り組んでいる主要プロジェクトの認知度を上げることを目的とする。            ・ラテンアメリカにおける評価選別と、これに取り組む国際フォーラムに関する報告 (María Teresa Bermúdez 〈コスタリカ大学〉、Norma Fenoglio 〈アルゼンチン・コルドバ大学〉)            ・「地方自治体における重要な記録物の管理」 Mariela Alvarez (ボゴタ市役所事務局アーキビスト兼司書)            ・ICA 危機管理プログラム (Christine Martinez 〈ICA PCOM 事務次長〉)</p>		
15:00	<p><b>【全体セッション II】 デイバート：アーカイブズ保存における利害関係者</b>            議長：Gerrit de Bruin (オランダ国立公文書館復元・修復責任者)            パネリスト：Jonathan Rhys-Lewis (保存コンサルタント 〈英国〉)            Saroja Wettasinghe (スリランカ国立公文書館ディレクター)            Dr. Sofia Borrego Alonso (生物学博士、キューバ国立公文書館研究助手兼教授)</p>		
17:00	<p><b>【分科会 II】 保存戦略と実行</b></p> <table border="1"> <tr> <td> <p><b>1 現在の課題を踏まえた保存政策の再調整</b>            議長：Severiano Severiano Hernandez Vicente (スペイン国立公文書館副館長)            講師 1：Per Culhead (IFLA 〈国際図書館連盟〉)            「総体的に見た保存」            講師 2：Dr. Wang Liangcheng (中国国家档案局保存修復調査官兼コンサルタント)            「中国における保存政策」</p> </td> <td> <p><b>2 現実と仮想のアーカイブズ組織</b>            議長：Yvonne Bos-Rops (オランダ国立公文書館)            講師 1：Jerry Handfield (米国ワシントン州アーキビスト)            「あらゆる国境、制限、境界を越えて：21世紀の記録保存」            講師 2：Clair Béchu (フランス国立公文書館)            Jean-Luc Bichet (建築家)            「フランス国立公文書館の新ビルディング」</p> </td> </tr> </table>	<p><b>1 現在の課題を踏まえた保存政策の再調整</b>            議長：Severiano Severiano Hernandez Vicente (スペイン国立公文書館副館長)            講師 1：Per Culhead (IFLA 〈国際図書館連盟〉)            「総体的に見た保存」            講師 2：Dr. Wang Liangcheng (中国国家档案局保存修復調査官兼コンサルタント)            「中国における保存政策」</p>	<p><b>2 現実と仮想のアーカイブズ組織</b>            議長：Yvonne Bos-Rops (オランダ国立公文書館)            講師 1：Jerry Handfield (米国ワシントン州アーキビスト)            「あらゆる国境、制限、境界を越えて：21世紀の記録保存」            講師 2：Clair Béchu (フランス国立公文書館)            Jean-Luc Bichet (建築家)            「フランス国立公文書館の新ビルディング」</p>
<p><b>1 現在の課題を踏まえた保存政策の再調整</b>            議長：Severiano Severiano Hernandez Vicente (スペイン国立公文書館副館長)            講師 1：Per Culhead (IFLA 〈国際図書館連盟〉)            「総体的に見た保存」            講師 2：Dr. Wang Liangcheng (中国国家档案局保存修復調査官兼コンサルタント)            「中国における保存政策」</p>	<p><b>2 現実と仮想のアーカイブズ組織</b>            議長：Yvonne Bos-Rops (オランダ国立公文書館)            講師 1：Jerry Handfield (米国ワシントン州アーキビスト)            「あらゆる国境、制限、境界を越えて：21世紀の記録保存」            講師 2：Clair Béchu (フランス国立公文書館)            Jean-Luc Bichet (建築家)            「フランス国立公文書館の新ビルディング」</p>		

10月27日 (木)			
9:30	<p><b>【全体セッションⅢ】 災害対策と対応：協力と戦略的パートナーシップ、災害から得た教訓、今後の目標</b>  <b>議 長：</b>Jean-Wilfrid Bertrand (ハイチ国立公文書館)</p> <p><b>近年の災害経験の報告</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高山正也 (国立公文書館長) 「被災アーカイブズを救え！ - 悲惨から明日への希望の発見へ」 ケルンの事例にみる教訓—協力の輪を広げて—</li> <li>・Karl von Habsburg (ブルーシールド・ネットワーク)</li> <li>・Dr. Bettina Schmidt-Czaia (ケルン市歴史文書館主任ディレクター) 「ケルンの教訓—文化財保管施設が守るべき十戒—」</li> <li>・Peter Blum (ハイデルベルグ市公文書館ディレクター) 「大惨事…コミュニケーション—協力—調整」</li> <li>・Danièle Neirinck (国際会議「国境なきアーカイブズ (ASF)」フランス支部長) 「ASF—フランス支部とケルンの大惨事」</li> </ul>		
11:30	<p><b>【分科会Ⅲ】 理論と基準から実現へ</b></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><b>1 基準を用いる利点とは何か？</b>  <b>議 長：</b>Hedi Jallab (オマーン中東情報工学大学歴史・アーカイブズ学担当准教授)</p> <p><b>講師 1：</b>Jonathan Rhys-Lewins (保存コンサルタント)  「伝統的媒体の保存基準：投資の結果何を 得るのか？」</p> <p><b>講師 2：</b>Raivo Ruusalepp (エストニアン・ビジネス・アーカイブズ)  「基準：証拠から学びへ」</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><b>2 保存管理の実際</b>  <b>議 長：</b>Esther Cruces Blanco (スペイン・マラガ  県歴史公文書館ディレクター)</p> <p><b>講師 1：</b>Paloma Mújica González (チリ国立修復  元センター紙研究室主任学芸員)  「チリ国立修復元センターのアーカイブ  ズ保存関連活動」</p> <p><b>講師 2：</b>Charles Magaya (タンザニア国立公文書  館・記録ディレクター)  「タンザニア国立公文書館におけるアー  カイブズ情報の保存と修復」</p> </td> </tr> </table>	<p><b>1 基準を用いる利点とは何か？</b>  <b>議 長：</b>Hedi Jallab (オマーン中東情報工学大学歴史・アーカイブズ学担当准教授)</p> <p><b>講師 1：</b>Jonathan Rhys-Lewins (保存コンサルタント)  「伝統的媒体の保存基準：投資の結果何を 得るのか？」</p> <p><b>講師 2：</b>Raivo Ruusalepp (エストニアン・ビジネス・アーカイブズ)  「基準：証拠から学びへ」</p>	<p><b>2 保存管理の実際</b>  <b>議 長：</b>Esther Cruces Blanco (スペイン・マラガ  県歴史公文書館ディレクター)</p> <p><b>講師 1：</b>Paloma Mújica González (チリ国立修復  元センター紙研究室主任学芸員)  「チリ国立修復元センターのアーカイブ  ズ保存関連活動」</p> <p><b>講師 2：</b>Charles Magaya (タンザニア国立公文書  館・記録ディレクター)  「タンザニア国立公文書館におけるアー  カイブズ情報の保存と修復」</p>
<p><b>1 基準を用いる利点とは何か？</b>  <b>議 長：</b>Hedi Jallab (オマーン中東情報工学大学歴史・アーカイブズ学担当准教授)</p> <p><b>講師 1：</b>Jonathan Rhys-Lewins (保存コンサルタント)  「伝統的媒体の保存基準：投資の結果何を 得るのか？」</p> <p><b>講師 2：</b>Raivo Ruusalepp (エストニアン・ビジネス・アーカイブズ)  「基準：証拠から学びへ」</p>	<p><b>2 保存管理の実際</b>  <b>議 長：</b>Esther Cruces Blanco (スペイン・マラガ  県歴史公文書館ディレクター)</p> <p><b>講師 1：</b>Paloma Mújica González (チリ国立修復  元センター紙研究室主任学芸員)  「チリ国立修復元センターのアーカイブ  ズ保存関連活動」</p> <p><b>講師 2：</b>Charles Magaya (タンザニア国立公文書  館・記録ディレクター)  「タンザニア国立公文書館におけるアー  カイブズ情報の保存と修復」</p>		
13:00	<p><b>【公開セッション】 ICA 周知向上セッション</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「アーカイブズ公開原則草案に関する公開フォーラム」 Trudy Huskamp Peterson (ICA ベスト・プラクティスと基準討議委員会、アクセスに関する作業グループ議長)</li> <li>・「FIDA 概要及び個人・組織からの応募方法について」 Sarah Tyacke (国際アーカイブズ開発基金 (FIDA) 委員長)、Vitor Manoel Marques da Fonseca (ブラジル国立公文書館上級専門官)</li> <li>・PCOM (プログラム・コミッション) への応募 (Christine Martinez (PCOM 事務次長))</li> <li>・「周知向上：世界アーカイブズ宣言を用いた広報」 Kim Eberhard (ICA 宗教アーカイブズ部会長)</li> </ul>		
15:00	<p><b>【分科会Ⅳ】 ワークショップ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICA 災害対策</li> <li>・「災害後の被害評価に対する緊急対応」 Yulu Griffith Klein (インディペンデント・プラクティショナー)</li> <li>・ICA-Req モジュール 3 の利用法 (Janet Foster (アーカイブズ関連コンサルタント))</li> <li>・ICA AtoM プロジェクトの最新情報 (Vitor Manoel Marques da Fonseca (ブラジル国立公文書館上級専門官))</li> <li>・Wikipedia/GLAM (Pamela Wright (米国国立公文書記録管理院))</li> </ul>		
17:00	<p><b>【全体セッションⅣ】 総括 発見、結論そして進むべき道</b>  <b>議 長：</b>Daniel J. Caron (カナダ国立図書館公文書館長)</p> <p><b>パネリスト：</b>講師及び ICA 幹部  2012年ICA 大会プレゼンテーション (Margaret Kenna (大会担当事務次長))</p>		